

インターバンクの声（2017年6月14日）

今週の外国為替市場は、東京、ロンドン、ニューヨーク市場を問わず、5/13-14に開催されるFOMCを前に積極的な取引が進まず、ドル/円が110円を挟んで上下に40銭、ユーロ/ドルも1.12ドルを挟んで上下30ポイントほどの値幅しかない取引が続いている。

ニューヨーク市場の朝方に発表された米5月の生産者物価指数が市場予想から大きく乖離するようなことになれば、多少は相場に影響したはずだが、結果は市場予想通り。エネルギーと食料品を除いたコア指数が若干ながら市場予想を上回ったことで、円売り・ドル買いの反応にはなったが、ロンドン市場の朝の高値110円27銭は越えなかった。

その後は2.23%付近まで上昇していた米10年債利回りが再び2.20%割れまで低下したことからドルが売り戻されたが、薄商いの中での微調整といったところ。

一部から注目されていたセッションズ米司法長官の議会証言も「駐米ロシア大使と会談した記憶はない」といった発言では拍子抜けだ。

相場の反応がどの程度になるかは別にして、明日の東京時間未明に発表される米FOMC結果を待つしかなさそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。